

日本余暇会再スタート構想

1) 基本的なスタンス

- ・余暇会独自路線の追求
- ・ポストコロナ時代の新たな余暇運動を構築する
- ・日レクやその指導者は批判的に活用する

2) 体制づくり

- ・会長：山崎 理事長：道廣 藺田は顧問
- ・理事に辰巳、山田、石垣、佐藤健、花谷 + 各地方の活動家
- ・事務局は織田祥代氏にやってもらえないか。
- ・新たな活動家のリクルート
- ・法人格の獲得に向けて準備 (NPO 法人)

3) 会員制の確立

- ・旧余暇開発士、余暇マイスター、全レク大会参加者などの「顧客リスト」をもとに新たな会員制を整える。
- ・規約の制定、会員の権利義務を明確化
- ・会費の徴収、それに見合う会員の特典を用意する
(情報提供、講座参加費の免除／割引など)

4) 当面の事業

① コロナ時代の新余暇診断の作成と普及

昨年の辰巳—花谷試案を発展させて普及を図る。

② オンライン余暇講座の継続実施

2か月に1回プラスアルファ (年間8～10回) 実施。

(テーマ案)

散歩の達人講座 (藺田)

オンラインによる健康運動案内 (一橋大：青野桃子)

オンライングループワーク (東京女子医大：諏訪茂樹)

オンライン音楽の楽しみ (ライブハウスの研究者・実践家 宮入恭平)

・・・

(発信) X-View 花谷氏の協力を得る。

* 受講料 1回 500円 (会員になれば無料)

③「にっぽん余暇大学」の設立準備

設立準備委員会の編成

カリキュラム、講師団、テキストの選択／制作

実験的な短期オンライン講座の実施

- *新しい生活と余暇デザイン（大妻大：宮田安彦教授）
- *レジャー・ビジネスの展望（余暇ツーリズム学会から招へい）
- *ポストコロナの余暇社会学（藺田）ほか

④余暇レクリエーション支援者研究集会の開催

昨年と同様のやり方 2021年9月（全レク大会にぶつける）

⑤広報活動

ホームページの充実

⑥ 助成金の獲得

- ・子どもゆめ基金（5月）
- ・研究助成財団の開拓

5)総会の開催

以上のことを確認し、2021年度の活動を始動させるためにオンライン会員総会を開く

- ・5月上旬を想定
- ・総会案内を送って会員の確定を進める。
- ・総会とオンライン余暇講座をセットで行う。